

# GMO INTERNET GROUP

## 2023年12月期 第2四半期決算説明会 質疑応答の要約

2023年8月9日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネットグループCFOの安田、副社長の伊藤、グループ執行役員の稲垣、GMOフィナンシャルホールディングス代表執行役社長の石村、GMOアドパートナーズ代表取締役の橋口より回答させていただきました。なお、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

### ● 連結

【Q1】 15期連続増収増益に向け、1Qの説明会では「達成したいという意志を持っている」というコメントがあった。2Qでは約20億の特殊要因があり、連続増収増益のハードルは上がった印象だが、考えに変わりはないか？

【A1】 15期連続増益は達成したいという強い意志に変わりはありません。上半期は特殊要因を除くと、インフラ・金融を中心に着実に利益を積み上げられたと思っています。特殊要因についても、課題は明確であり、債権回収を進めるとともに再発防止策にも取り組んでいます。引き続き、岩盤ストック収益の積み上げ、金融事業の収益性改善を主軸に増収増益を目指します。

【Q2】 連続増収増益に向けての前提条件について確認したい。インキュベーションの事業の貢献、特殊要因案件からの債権回収は織り込まれていますか？

【A2】 債権回収については一定程度見込んでいます。一方、インキュベーションの事業については、そもそも案件ありきであることから、現時点では織り込んでいません。既存事業を伸ばすこと、加えて、詳細お話しできないがその他利益拡大施策で連続増益を果たしたいと考えています。

### ● インフラ事業

【Q3】 セキュリティ事業の売上がQoQで落ち込んだが、要因はなにか？

【A3】 要因は主に2つです。まず、イエアエで展開するサイバーセキュリティ事業が需要期だった1Qからの反動減によるもの（約▲7億）。そして、ブランドセキュリティ事業で1Qに大口案件の貢献があったこと（約▲4億）によるものです。

【Q4】 イエアエのPL影響はどうなっているか？

【A4】 イエアエについては前年同期からPLヒットが始まっています。当四半期の個社の数字は売上7億、利益については▲1.7億となりました。この他のれんの償却2億がありますが、前年同期からは増収赤字幅縮小となっています。

【Q5】 イエアエのQoQの減収は、季節性によるものとの回答があった。イエアエはSaaS型のビジネスモデルと言う認識だが解約があったのか？

【A5】 現在のイエアエの売上高はプロジェクト型のもので構成されています。毎年1Qは案件が集中するという季節性がある事業です。プロジェクト型のサービスだけでは、ホワイトハッカーの人数が制約条件となって

# GMO INTERNET GROUP

しまうため、事業をスケールさせるためにSaaS型のサービスを3月に提供開始したところですが、今期中は無料提供期間となっており、業績貢献は来期以降を見込んでいます。

【Q6】 P.81のインフラの利益構成について、決済以外の例えばドメイン事業、クラウドホスティング事業のQ3以降の方向感について教えてほしい

【A6】 ドメイン、クラウドホスティングは契約件数の積み上がりが数百万件になっているため、四半期単位で大きな変動は見込んでいません。これまでどおり淡々と積み上がっていくイメージです。  
(伊藤)

## ●金融

【Q7】 上半期は収益性を重視した運用とのことだが、下期にかけてマージンが下がるような施策で考えているものはあるか？

【A7】 上期はFXを中心に収益率が改善していますが、必要以上の利益を追求する必要はないと考えています。収益率の向上により増えた利益はお客様に還元し、お客さまとWin-Winの関係を築きながら、顧客基盤、取引シェアを拡大していきたいと考えています。キャンペーン、還元施策を検討しており、早ければ下期のどこかで開始する予定です。  
(石村)

【Q8】 タイ証券事業において、追加の損失計上リスクはどう考えればよいか？

【A8】 既に引当金を計上している2銘柄については、株価下落余地が小さいことから、追加の引当金計上についても規模は大きくありません。  
(石村)

他の銘柄については、懸念というよりは、マーケットの流動性などのリスクを踏まえて、我々でリスク分類をしていまして、その中で注視しないといけない銘柄を識別しています。現時点では十分な担保があるのですが、どちらかというタイのマーケットの動きに左右されるため、どの銘柄にどういうリスクがあるのかというのはなかなか申し上げづらい状況です。

一方、大口の顧客へ集中し過ぎている銘柄というのがありますので、タイ子会社で担当者がお客様と対話をして、違う担保をいれていただくように依頼したりなど、今後こういうことが起こったときに、同じようなことが起こらないように対応している状況です。

## ●広告メディア

【Q9】 広告市況に関しては各社で濃淡あり、今後の方向感が定まらない印象を持っている。御社の見解を聞かせてほしい？

【A9】 コロナ明けの市場対応という観点で、この2Qは当社グループ各社でも明暗が出ている印象です。大別すると、巣ごもり需要で活況だった部門が経済再開を受けマイナスとなる一方、経済再開を受け、マーケティングを強化する顧客を抱えている部門はポジティブといったものです。  
(橋口)

# GMO INTERNET GROUP

マイナス部門については、2Qの遅れを3Q内で市場対応を進め、広告繁忙期である4Qに備えていきます。好調部門は、引き続きアクセルを踏み込んでセグメント全体をカバーできるようにしてまいります。ネット広告市場に関しては、確かに濃淡あるが、市場感全体が悪くなっているとは考えていません。

【Q10】 広告市況全体について、コロナ明けで媒体ミックスについて変化はあるか？例えば、TV広告のスポットが不調な一方、ネットメディア全般好調など。また、業種でみるとどのような特徴があるか？

【A10】 媒体別に見るとTVからネット広告へとシフトする流れは堅調に続いています。

(橋口) 各業種業態で申し上げますと、巣ごもり需要の恩恵を受けた、例えばゲーム・電子書籍といったオンライン系のサービスに一服感があるのに対し、経済再開を受け旅行、集客型のサービスが活況に推移している状況です。

## ●その他

【Q11】 特別損失に約12億円が計上されているが、内容は何か？

【A11】 8.9億円は有価証券評価損で、内容はタイ証券事業において、回収手段の一つとして担保となる有価証券を取得しており、時価が著しく下落したため評価減となっております。また、減損3億はGMOコインとFXプライムbyGMOの統合に際してソフトウェアの減損処理を行ったことによるものです。

以上